

静脈業界を牽引するリーダー：碇 隆司

第3回「社歌」～社員へのメッセージは音楽にのせて伝える～



私は昔から人に命令をすることや、人の上に立つことが苦手で、父親が怖かったせいもあり、親からは言葉を発するの遅かったと聞いている。もちろん、まずは社長から指示命令を出し、組織で動くところが会社であることはわかっているが、性格的にも私は流暢に話し周りや人を動かすようなタイプではない。社長として社員と社会へ私なりのビジョンやメッセージを伝え続けていくにはどうやっていくべきか悩んだ時期もある。そこで、音楽なら作詞・作曲することが大好きな自分が、自分らしいやり方で伝えることができるのではないかと考えた。

姉がピアノをやっていたこともあり、音楽は私にとって幼い頃から身近で、自然と馴染みいろいろな音階が頭にあった。高校時代には軽音部に所属し、ギターに打ち込みながら自然と作詞・作曲を始めていた。当時からチャリティーコンサートを開催し、自ら出演したり、音楽づくりの青春時代を経て、私にとって音楽は自分の気持ちを相手に伝えやすい手段かもしれないと思ったことはある種自然だった。

そして歌であれば自分が本当に伝えたいこと、感じたことを言葉にして、それを詞として書いて曲をつけることで歌にできるかもしれないと思い、その流れで「社歌」をつくることにした。

「せっかく生まれた命だから、万人も万物も精一杯共存し共生し調和して、命を受け、命を育み、命をつなげ、みんなでそんな環境をつくっていききたい」、それがアンカーネットワークサービスの経営理念「万人万物共存共生」だ。そういう願いや思いを声高らかに社員に訴えるよりも、歌で、音楽で、メロディーで形にしたい。「万人万物共存共生」の思いを歌詞に散りばめ、「輝く地球」という歌を作詞・作曲した。

この歌はアンカーネットワークサービスの社歌として社員とともに歌う。社員が好きな歌詞のフレーズは、「競争より共生の方がいいじゃない」だそう、私は「誠の道を歩んでいるから」「社会に照らし王道を歩こう」というところが気に入っている。

社歌をつくってみて、社員がもっと仕事のためにではなく自ら社会の重大な役割を担っているやりがいを感じてもらえたら素敵だと思う。年末の納会や期初の決起集会などの社内イベントは歌があることで社員と一体となった感覚が生まれるようになった。

社員は参加者全員で肩を組んで社歌を歌い、私は舞台から落ちそうになるくらい思いっきりギター演奏しながらフラフラになりながら歌う。どんなメッセージを社員に熱弁するよりも楽しい一瞬だと思う。

<社歌第一>

「輝く地球」

作詞 碇 隆司
作曲 碇 隆司

- | | |
|---|--|
| 1.
アンカーネットワークの使命 それは自然と共に
万人万物 調和を成し 喜び分かち合う事
サービスとは 自分なら 何をしてもらいたいのか
想い尽くし 相手に尽くし 喜んで行う事
悩んだり 傷ついたって いいじゃない
誠の道を歩んでいるから
今 成せる事成せばいいじゃない
精一杯輝こう | 2.
万物循環社会目指して我等は歩む
空に星が 大地に花が 人には愛があるように
社会に生かされし者 感謝を自分に変えて
理想思い リサイクルして 社会へ恩返します
競争より共生の方がいいじゃない
社会に照らし 王道歩こう
美しい星作るうじゃない
愛の花咲く地球を |
|---|--|



社歌を演奏する碇隆司

実は社歌「輝く地球」以外にもたくさんオリジナル曲をつくってきた。例えば社員同士の結婚式では、そのカップルのエピソードから思い浮かんだ言葉をつないで、曲を送る。曲が先に浮かぶこともあれば、逆に言葉からできてきて、その詞に合ったメロディーを添えていくこともある。何度も何度もつくり直してやっとひとつの形になるのだが、エピソードを聞き、歌詞や曲が完成するまでには実は何度も涙を流している。そして完成し、相手の笑顔や「ありがとう」と言われたときに私は心が震える。こんなときに言葉を越えた心からのやり取りができたと思っている。

【続く】



著者
株式会社アンカーネットワークサービス
代表取締役CEO

碇 隆司